

青年の気持ち出し 合う 青年後援会

日本共産党の白川よう子衆院四国ブロック比例候補は9月23日夕方から、高松市で青年後援会の一ついに参加しました。オンラインを活用しました。



保育や介護の関係者や、母親ら参加者が思いを出し合い、保育園での人員不足や保育料の高さ、夫婦で非正規雇用労働者が増えていることなどが語られました。「もともと介護の仕事をしていたが、なぜ給与が安いのか」と疑問だった。国の政策

女性勝手連が訴え

白川よう子衆院四国ブロック比例候補を国会へ送ろうと、女性の有志は9月26日、高松市の商店街で白川氏とともにリレートークしました。参加者は、思い思いの言葉を書いた横断幕などを手に白川氏と並びました。

みどり・香川の渡辺智子代表は、「女性なら誰でもいいというわけではない、白川さんと県議も一緒にやってきて、声をよく聞く人です」と強調



を変えないと職場環境はよくならない」と言う参加者も。「1次産業関係者から期待を寄せられていると聞いたが」という参加者に、白川氏は、漁業法の改悪などにふれ、現場の声を聞いて回ったことを語りました。

藤沢直人県委員長は「四国中で勝手連が広がっている。支持を伝えきつたら党は伸びる」と話しました。

新社会党の井角操委員長は「憲法は私たちが生きる礎。それを守ると決意する白川さんが国会で活躍してほしい」と話し、

善通寺で白川決起集会

日本共産党の白川よう子衆院四国ブロック比例候補は26日、善通寺市で決起集会を開きました。白川氏は四国各県で広がる勝手連を紹介しながら「みなさんの運動や力で共闘を作り出してきた。四国から1議席

を勝ち取るために党員人生をかけた選挙をやろう。私も人生すべてをかけて四国を駆けまわっている。ぜひ一人ひとりが知り合いに広げてほしい」と力を込めました。

中谷浩一県委員長は「公示までの1か月が大きな声で激励がある。声

切な日々となる。自民党の誰が総理になっても今までの政治は同じだ。党の議席が伸びてこそだ」と話しました。「新経済提言」や「気候変動危機の2030戦略」を紹介し「白川さんを国会へ送ろう」と力を込めました。



尾崎淳一郎香川3区候補は「選挙区どこでも大きな声で激励がある。声をかければ支持が広がることを実感する」と力を

you気 りんりん

白川よう子

四国ブロック国政対策委員長

徳島県以外の3県が「まん延防止等重点措置(まん防)」の適用にどこに行っても夕食を食べるにも一苦労。結局はコンビニで調達し、仕事しながらホテルの部屋にてという日も続いています。

の状態。

本当にこの国のコロナ対策は間違っている。千葉県でコロナ感染自宅療養の末、早産で赤ちゃんを亡くしたお母さんの気持ちを考えていただけ

「命を粗末にする政治を変えたい」と街頭から訴えると、あちこちで道ゆく人が立ち止まって演説を聞いてくれ「頑張っつて!」とうれしい反応。先日は演説をじっくり聞いてくれたタクシー運転手さんが、「日本共産党を応援して頼んでいよう」と話してくれました。菅政権には自分の命を任せられないという思いが国民共通の認識になっていきます。



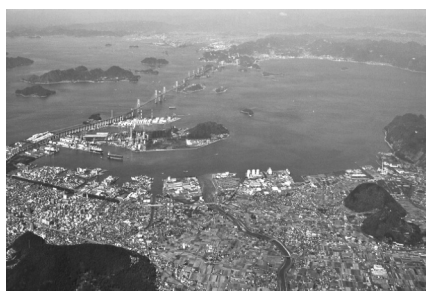
松山市で居酒屋さん前を通ると「コロナ感染がお酒のせいにされましたので休業します」との張り紙。店主さんがいらっしやっただで声をかけてみると、「前回のまん防の時の時短・休業補償が、昨日ようやく振り込まれた。これでやっと支払いができる」との声。しかしまたまん防が始まりどんだら何とも思わないのだろうか。

27日には高知県安芸市で「政権交代をめざす市民の会」が発足し、スタート集会として安芸駅前で立憲の武内のお衆議院議員と一緒に訴え。光はここに見えます。

陸上自衛隊 全部隊10万人参加 30年ぶり大規模演習始まる

9月15日から陸上自衛隊の全部隊が参加し、善通寺市の第14旅団も参加する「陸上自衛隊演習」が、11月下旬にかけて始まっています。日本共産党の調査で、民間

のフェリーやトラック、鉄道網を使うことが明らかになっていきます。12000人が、九州方面へ機動展開する訓練で、海路と陸路で輸送がされ、民間フェリーも使用される選挙になることなどを訴えました。



政府を、白川さんを送って作ろう」と訴えました。白川氏は、6年間での野党共闘の進化、ジェンダー平等、医療現場出身者として政治でない救えない命のこと、命を守る選挙になることなどを訴えました。

党は「防衛省は、対中国を念頭に、全国の自衛隊基地から南西諸島に機動展開能力強化を想定しており、演習がその一環であることは明らかだ」としています。

豊島遮水壁 12月にも撤去開始

土庄町豊島の産業廃棄物処理は、投棄現場にある遮水壁を12月にも始める見込みであることを県は26日に発表しました。

遮水壁は、汚染された地下水の流出を防ぐ目的で、廃棄物が不法投棄されたエリアの北側に約1000枚を埋め込んでいます。壁は引き抜き式が原則ですが、老朽化などで引き抜けない箇所は埋設したり穴をあける方針です。県は、22年度までに豊島の不法投棄処分全体の作業を終えたいとしており、これまでに地下水の浄化が完了しています。



日本共産党は問題発覚

質問を重ねたり、春名なおあき衆院議員(当時)が現地調査や地元住民との懇談に入っています。